

- 1 会 議 名 議会基本条例推進協議会
- 2 日 時 令和4年5月20日（金）
午後1時30分から午後2時35分まで
- 3 場 所 第2・第3委員会室
- 4 出席議員 15名
- 5 欠席議員 なし
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子
- 7 会長あいさつ
- 8 協議事項

（1）「市議会サポーターの声」回答について

関戸会長：市議会サポーターの声だが、指摘を反映して、議会運営委員会で承済み。最終版を配付したが、追加のご意見はないか。

（意見なし）

関戸会長：ではホームページに掲載しておく。

（2）令和4年度予算における新規及び主要事業への市民意見に対する回答について

関戸会長：勘違いしていたのだが、個別に回答するものではなかった。資料として取りまとめたので、市民の方に聞かれた際に回答するのに活用してほしい。

梅村議員：予算審議で活用することが意見募集の目的と理解しているので、回答とはすなわち市側の答弁と理解している。委員会の答弁を取りまとめたという意味では、北小屋内運動場のピアノ演奏は、答弁よりも後の日程だったので、一覧表の時制も「行う予定」でよいのでは。

関戸会長：「行う」が正しい。事業番号4の「800万円は無駄である」との意見については、梅村議員の一般質問に対する回答が該当すると思われ、議会だよりに掲載されているので参考にしてもらおうとよい。もう一つ気になるのは、その他①職員の管理体制等に関する質問に対する回答で、管理体制自体については公表していないとあるが、実際の答弁では公表の有無については述べていないため、省いたほうが良いと考える。梅村議員の指摘のとおり、この資料はウェブに掲載しないので、まとめたものとして取扱をお願いします。

（3）行政視察の受け入れについて

関戸会長：視察・研修等判断基準について。独自の警戒措置等が発出されている時に4名以内と制限すると、受入れ拒否しているのと実質は同じ

なので、制限なしとしてはどうか。

(意見なし)

関戸会長：また、ホームページへの掲載だが、ページのイメージを見ていただき、なにか意見はあるか。マトリックス表を載せるわけではなく、文章にして受入れ可否の条件を掲載した。

(意見なし)

関戸会長：申込み期間を1か月後から3か月後までの受付としたいが、よいか。また、月曜と金曜は視察を受け入れないことでよいか。

(意見なし)

関戸会長：オンライン視察のやり方を検討したい。

片岡副会長：これからはホームページで告知し、正式にオンライン視察を受け入れていくために、実施方法を決めておきたい。基本的に、カメラは1台、委員会室のマイクシステムを使用しながら実施する方式を考えている。Zoomは7月からライセンスを使用できるので、それまでにルールや部屋のレイアウトを決定したい。事務局に機材等を揃えてもらうので、準備が出来次第テストを行いたいので、皆さんの協力をお願いします。

関戸会長：次回、6月17日になろうかと思うが、協議会の時に実際にセッティングして、見てもらいたいのでご協力を。前回舞鶴市とのオンライン視察の際の相手側のイメージ。それからチーム分けは次のとおり。

Aチームは、谷平議員、黒川議員、大野議員、須藤議員、井上議員、木村議員。Bチームは、梅村議員、片岡議員、鬼頭議員、水野議員、宮川議員、堀議員、榎谷議員。議会に関するテーマの視察はこのチームだが、テーマによって変更の必要があるかと思われるのでその都度、相談したい。

須藤議員：何か持ち物は。

関戸会長：不要。Zoomのテストがしたければ自分のパソコンを持参。

木村議員：舞鶴市議会とオンライン視察を実施したが、参加しなかった人はどんな話だったのかわからないので、共有しておいたほうがいいのでは。

関戸会長：誰か紹介してもらえるか。

鬼頭議員：サポーター制度についてお話しした。毎年どれくらいの人が集まるかとか、公募での集まりが悪いので募集の方法について今後どうするかとか。

木村議員：情報公開NO.1を目指す取組として、政務活動費の使途の領収書のホームページでの公開が非常に速かったこと、録画配信を委員会に

についても手作業であるが実施していること、協議会も含めた会議録を公開していること、議会だよりの改善や市議会子どもページの紹介をした。舞鶴市議会もいろいろ行っているとお聞きし、こういった交流は必要と感じた。

関戸会長：舞鶴市議会とのオンライン視察に参加した議員で、レイアウト等に関する意見や提案はないか。

鬼頭議員：舞鶴市は全員が一つのテーブルを囲み、全景が見えるようにしていた。こちらは横2列になっていたが、舞鶴市のようにしたほうがいいと思った。オンラインでは実際のやり取りとは違うので、そこはまだうまくできないと感じた。資料の共有や画面共有については難しくないでスムーズであった。当日舞鶴市に渡した資料は事務局にあるので参考まで。

関戸会長：せっかく Zoom を購入したので、うまく使っていきたい。

片岡副会長：来月の協議会でテストしながら、パソコンの操作は誰がするのか、レイアウト、そしてオンライン視察用の資料のあり方など、資料共有の操作も見てもらいながら、決めたい。

（４）議会改革における課題及び検討事項について

関戸会長：重点課題の抽出を行う。

（意見なし）

関戸会長：意見がないようなので、正副会長から提案する。

片岡副会長：事前に正副会長で検討したのだが、③タブレット導入検討と、⑦ふれあいトークの改善はどうか。タブレットは、茅野市への視察もそろそろ実現できそう。ふれあいトークは、Zoom も導入するのでオンライン企画を議会から提案し、幅広い意見を聴取してはどうか。

梅村議員：改選まで1年。議長の議会改革に対する考えを聞きたいのだが。

伊藤議員（議長）：残り1年なので、あまり無理をせず、出来る範囲で。

関戸会長：課題をこの2点とすることでよい。それぞれのチームで1点ずつ検討していく。

（異議なし）

関戸会長：現時点においてICTチームは、チームリーダーは片岡議員、伊藤議員、谷平議員、水野議員、宮川議員、須藤議員、木村議員、梅村議員。

市民参加チームは、チームリーダーは大野議員、関戸議員、黒川議員、堀議員、井上議員、桝谷議員、鬼頭議員。メンバーはこのままでよろしいか。

毎回、何かしらの進捗を報告できるようなペースで進めていただきたい。

大野議員：課題を2つに絞るなら、チーム分けせずに、協議会において全員

で検討したらどうか。

鬼頭議員：推進協議会は毎月 1 回開催なので、根を詰めてやるには少ないのでは。チーム分けしたほうがいいと思う。

宮川議員：進め方は会長を中心に進めてもらえばいい。最終的には全体で議論する場は必要だが、テーマを深堀するのに、全員で協議すると話があちこちへ行ってしまってまとまらないことが今までもあったので、この 1 年で一定の結論を出すことが出来るような進め方がいい。

大野議員：ふれあいトークの改善はみんなで考えることだ。

宮川議員：過去、地域でふれあいトークを開催した時、地域で声の大きな人がマイクを握って離さない等、女性や若者の声が拾いにくいという反省があったため、チームでターゲットを絞り、全体で承認をもらって、開催してきたのが経緯。全体の構成は全員で話しあってもいいし、会長の方針でいい。

梅村議員：ふれあいトークの運営は、会長の下で、全体でやるということでもいいか。市民参加チームは、新しいやり方や改善策を企画してもらおうということでもいいか。どこまでチームに任せるかをはっきりさせないといけない。

関戸会長：改善する課題に特化して、市民参加チームで進めてもらえればと考えている。当然全体でやらなければならないことは、全体で諮っていく。

大野議員：市民参加チームでやることは、課題抽出だけでいいということ。

関戸会長：そうではなく、課題を抽出して、改善策を提案し解決するところまでやっていただくとありがたい。

片岡副会長：女性の声や若者の声が吸い取れない、という課題があるとして、それならばこういう意見交換会を企画したら吸い上げられる、というところまでをチームで提案してもらい、その先は協議会で検討するイメージ。

黒川議員：大切なのは、テーマ設定。若者や女性に関心を持ってほしいもの、何を目指そうとしているのか、課題を設定して広く呼びかけ、オンラインで進めていく。テーマの設定をするための話し合いが重要。当面は 2 チームに分け、途中から全体会でまとめていくことになると思うが、とりあえずやってみよう。

大野議員：私が質問したのは課題の⑩でオンラインによる広聴のあり方が広報委員会と提示されているので、課題⑦と被っているからどっちなんだという。

鬼頭議員：被っているものは他にもあると思う。便宜上、広報委員会と割り振っただけ。まずは市民参加チームで検討したらいいと思う。

(5) 意見交換会、議会報告会、防災訓練等企画及びスケジュールについて
関戸会長：過去の実施状況を参考に、年間スケジュールを作成した。また、

過去の意見交換会の一覧も掲載した。

木村議員：商工会意見交換会の、「前々回」とは。前回はいつなのか。

梶谷議員：前回は、一部の議員だけ参加したという意味では。

木村議員：それはカウントしないのでは。

関戸会長：「前回」でよい。あくまでも予定を作成しただけであり、今後このようなスケジュール感で検討したいということ。

梶谷議員：ふれあいトークの10月29日は決定ではなく予定。

関戸会長：大まかに、このくらいの時期。例年の実施状況を参考にした予定である。2か月前くらいに日にちと場所を決める。

宮川議員：先ほど黒川議員が指摘したテーマ設定はとても大切。過去に地区での意見交換会を実施していたのは、議員が出ていない地区から意見を吸い上げるといった目的があったから。ターゲットを絞り、課題を絞ることは重要。いつまでに課題を抽出して、具体的な計画は市民参加チームで、全体ではいつ頃検討してという大まかなタイムスケジュールを決めたほうがいい。

片岡副会長：例えば保育園の統廃合の計画について、審査に対して市民の意見を抽出することが必要と考えるが、母親世代をターゲットにふれあいトークを行うとか、審査に対して必要な意見を抽出していただければと思う。ふれあいトークを行うことによって解決していく、意見を議員側に蓄積していく。それを市民参加チームに検討してほしい。

関戸会長：どれくらいのタイミングで決めて、やることを広めていくか大事ということか。そこも含めて次回までに考えさせていただく。

(6) その他

大野議員（議会広報委員会委員長）：7月1日号の議会だよりでサポーター公募の案内を載せるが、締切を6月末日にすると、配付してから期間が短い。公募期間を7月8日に伸ばしたいがどうか。

関戸会長：公募の期間について、7月8日までとしてよいか。

梅村議員：全体のスケジュール、説明会、募集が決まってからの事務作業等大丈夫か。

関戸会長：事務的な不都合はないとのこと。

井上議員：市議会サポーターの声について、議会運営委員会で回答を作成しているが、議会運営について意見をいただくことがサポーターの目的だ

ったと記憶しているが、サポーターの声のほとんどが政策に関するもの。政策について意見を言いたくなる気持ちが大きくて、食い違ってきていないか。

関戸会長：おっしゃる通りで、議会運営に対する意見をいただくことが目的。曖昧になってしまっている。議会運営に関する意見以外はやめるか、現状のままいくのか。

大野議員：説明会で、「サポーターの声」は議会運営に関すること限定、政策に関することは意見交換会で、とお伝えする。それでも出てくるだろうが。

片岡副会長：それでも提出されるだろうとは思う。提出されたら、無下にするのもどうかと思う。問題は全て議会運営委員会で回答を作成していること。常任委員会で回答を作成していた年もある。ルール化していない。政策に関することは各常任委員会がいいと思っている。

宮川議員：その通りだと思う。議会が答えるものと、執行機関に聞くものと分けるべき。常任委員会が担当課に回答を求めて、それを常任委員会で検討しながら回答を作成する。

梶谷議員：議会報告会の予算と決算に関する意見は、常任委員会に分けていた。サポーターには議会運営に関することが主だと説明してきたが、議会に対して積極的な意見を持っているというより、市政全体に対して意見を言いたい人が多いため、難しい。常任委員会に振って、当局に回答をもらうというような交通整理をしていくしかないのでは。

須藤議員：今までどおりやるならば、執行機関に回答をもらうということ、ここで決めてほしい。行政に確認を取って、議会運営委員会の回答として出すということで決めてほしい。

大野議員：議会サポーターは政策サポーターではない。趣旨が変わってきてしまっているから、そこをどうしたらいいか議論したほうがいい。

宮川議員：最初にしっかりと、議会のサポーターだと説明するしかない。行政全般に興味を持ってもらっているのはいいので、議会として答えられないものは当然あるので、整理をしっかりとる。

関戸会長：議会の運営に対する質問は100%受けるが、それ以外については私のほうで適切に対応していく。届いたときに皆さんにお諮りする。

片岡副会長：説明会で、議会運営に対する意見はどういうものか、例示したらわかりやすいのでは。説明資料に書こうと思う。

梅村議員：政策的なものでも、この政策を議会で検討してほしい、という意見なら議会への意見。都度対応する必要はある。基本的には、議会の中で完結させるべき。議会で取り上げますとか、常任委員会で研究します、と

か。一方で五条川堤の草刈りの回数は、と聞かれて、市民の声で聴いてくださいと回答するわけにはいかないので、執行機関に聞くことはある。臨機応変に対応する必要もあるが、原則は議会運営委員会で協議するもの。

9 その他

関戸会長：次回は6月16日か17日の予定。